

2021年度第9回3月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2022年3月

2. 開催の場所 各委員に資料を郵送して番組をお聞きいただき、
意見・感想を返信してもらう形式で開催

3. 委員の出席 委員総数9名
返信総数9名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	副委員長	河又弘子
	委員	竹内明子
	委員	白幡冬彦
	委員	古口 悟
	委員	富田哲夫
	委員	大森玲子
	委員	石松英昭
	委員	大出正志

4. 議 題

(1) 特別番組「オシエルズのオシエル教室」

2月19日(土)・26日(土) 18:15~18:30 (15分番組)

(2) その他

5. 議事内容

(1) 特別番組「オシエルズのオシエル教室」

番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴していただいた

議題説明：ともに教員経験のあるお笑いコンビ「オシエルズ」。全国の学校でワークショップや講演会を行っている。学校の協力のもと、その模様を収録し 特別番組として放送。進路や対人関係で悩む学生がオシエルズからヒントをもらい問題解決に繋がるきっかけにしたいとの思いから番組を制作した。4月よりレギュラー番組化が決定した。

各委員からは、

- 自らのイジメを受けた経験をもとに、お笑いを通じてイジメられる側の気持ちを伝えることにより聴く側も受け入れやすく、聴きやすかったと思う。授業を受けた生徒たちがイジメをしないように願うばかりだし、レギュラー番組としてぜひ続けてほしい。
- このようなコンビが存在すること自体が今の社会状況、子どもの環境を考える機会になる。志のある人々が若者に働きかけていくことは大切で、このような番組が放送されることは意義のあること。オシエルズの話術が向上すれば、もっと引き込まれる人多くなると思う。
- 教員の経験を生かし学校現場からいじめをなくすという高い目的のために地道な活動を行っており、お笑い芸人ならではの軽いトークで、学生たちへ自然な形で訴えかけている。マナーや挨拶の重要性など、学生のみならず放送を通じてリスナーへさりげなく気づかせている番組。
- 講演というよりは「研修」的で説教臭く感じたが、高校生のコメントは肯定的で、オシエルズの熱量と訴えている趣旨は伝わっていると感じた。番組は体験を活かして相談や質問に答えたり、思春期の子供たちが悩みがちなことへのアドバイスなどを検討してはどうか。直接電話相談するなどもよいと思う。
- 表情やしぐさが見えないせいか、お笑いの面白さが伝わってこなかった。声を張り上げていたせいか、声だけ聴いていると怒られているようにも感じた。会場の笑いなどを音として積極的に使えば楽しさが感じられたかもしれない。生徒に寄り添うというより先生の視点で話していたように思う。レギュラー番組では対人関係など悩む生徒たちの励みになる内容を繰り広げてくれることを願う。こうした活動をしている教員経験者が今後、レギュラー番組で登場することは期待できる。

- 教員経験のあるお笑いコンビによる漫才や課外授業、ワークショップというのは、大きな意味があり、今の時代だからこそその役割があると思う。レギュラー番組では、是非学校に行って課外授業などをやらせてもらえるとよいと思う。今後の展開に期待する。
- 前置きが長く、見下ろすような目線で、説教している感が否めなかった。教訓じみた説教的話し方は教師そのもののように感じた。2人の声がよく似ている。子供向けの教育番組なら致し方ないが、映像のないラジオに向かないタイプではないか。
- こうした2人組がいることを初めて知った。聴く人の気持ちを引き付ける構成で、聴きやすかった。はたらくという言葉の意味や説明などわかりやすかった。全国の学校を回っているという状況を聞くと裏を返せば今の教師では変えることができないのかと、教育の現場が不安になった。熱意をもって語っていた。
- いじめの対象となりやすい「個性」・「いじり」が「いじめ」に繋がっている等、生徒への道徳的なアプローチを説教っぽくならず伝えていたと感じた。キャリア教育についてもお笑いに乗せて重要なことを伝える手法は、湿っぽくならず高校生の心に響いたのではないか。このような番組は学校現場の様々な場面で活用してもらえると。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の答申および意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」
(2022年4月3日(日) 午前8時5分放送)
- ② 当社のホームページに掲載(2022年4月1日～)
- ③ 当社事務局に議事録備え置き(2022年4月1日～)

以上